家庭園芸

"果菜類の整枝"

時節も初夏の候を迎えますと、菜園のトマトやナス、ピーマンなどは元気に育ってきます。うね巾も株間も十分とったつもりでも、生長がすすみますと、混みあって、うね間一杯になってきます。これらの野菜の整枝は無駄な枝を除いて、十分の実つきをはかるうえで大切です。

トマトは普通一本支立にします。葉腋から出る芽は早目にすべて取り除きます。また、植える株数が少ないような場合には二本支立にすることがあります。この場合は第一花房（最初に実のつく房）のついている直下の節から出る芽が最も元気がよいものですから、その芽をのばして主枝とともに二本として、他の芽はつみとります。

ナスは一般には三本支立が普通です。第一番花の下二つの節からでる芽が元気がよく、主枝とともに三本に支立てて、このままのばして、この先は放任しておきます。三本に支立てた下の節からでる芽は早目にかきとって、混みあわないように注意します。通気や陽の当りが悪くなると病害の発生のもとともなりますから、整枝は大切です。

ご相談は 園芸センター（☎86—1034）へ。月曜日は休園です。（月曜が祝日のときは火曜日休園）

市民秘蔵の作品集め 「行田魁庵展」オープン 7月20日まで

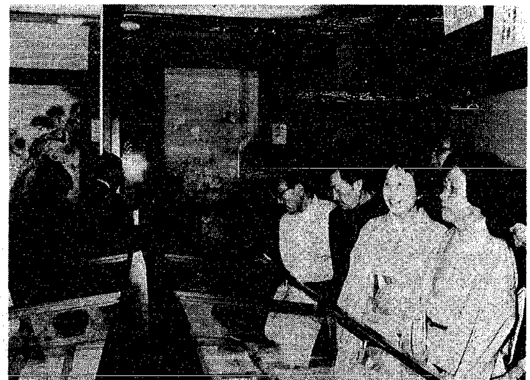
五月二十四日、郷土資料館で、市民の皆さんが所蔵している行田魁庵の作品を集め、「行田魁庵展」がオープンしました。

郷土資料館では、これらの作品を七月二十日まで、四回に分けて展示します。どうぞご鑑賞ください。

行田魁庵は、五十嵐俊明、石川侃斎と並び、江戸時代新潟の生んだ三画家の一人として知られています。

郷土資料館では、新潟の生んだ文化人発掘作業の一つとして昨年、一昨年と「俊明展」「侃斎展」を開催、今年は「魁庵展」を企画しました。

市報で市民の皆さんに資料の提供を求めたところ、四十一人の方から六十四点の軸物、びょうぶ、額などが集まり、魁庵の没後百年にして、遺作を一堂に展示することができました。



熱心に魁庵の作品を鑑賞する市民

行田魁庵

文化九年（一八一二）出生。古町通一番町の神明宮（船江大神宮）の神官で、祝詞を読むかたわら、画業に精進、新潟の呉服商で画家の志賀北洋、三条の行田雲涛、京都の山本梅逸の指導を受けた。初め「北涯」と号し、後に梅逸がつけてくれた「魁庵」の雅号を用いる。現在市の文化財に指定されている新潟港の「入船図」（松崎・小島藤兵衛氏蔵）は彼の代表作の一つ。明治七年（一八七五年）七月八日没。六十三歳。関屋金鉢山の智月寺に墓がある。

早起き野球アラカルト

ブロック別優勝予想 〜3〜

Gブロック

トヨタを追うNTNといすゞ

クジのいたずらか右半分に強豪が集中した。前年準優勝の新潟トヨタ、ブロック優勝の新潟NTNがいる。続いて、新潟いすゞ、獅子印ライオンズ、新潟文化自動車学校、菱機工業か。順当にいけば三回戦で対戦するトヨタといすゞが一番の好カード。トヨタは昨年新商から入社した田中—大沢のバッテリーが大活躍して二位となった。今年も四人の経験者を補強した。いすゞは頭脳的な投球をする北村、鉄砲肩の佐藤、しぶとい村山をそろえ、数年前までは市内のトップチーム。NTNは、二年連続ブロック優勝チーム。新商から渡辺が入社し、投手力が一段とアップした。

Hブロック

電気通信部が一歩リード

新潟電気通信部が一歩リード、大桃のいる日石スラッガーズ、明治屋新潟支店、ファイヤーズ、ナカムラ、ヤマニタムラ、県都タクシーと続く。

電気通信部は、市立工で広島カープの三輪と一緒に投げていた長谷が大黒柱、攻走守、三拍子そろった好チーム。日石は大桃の右腕だけが頼み。ファイヤーズは、野球愛好者だけが集まった職場チーム、良くまとまっている。

Iブロック

大助、ラムズの争い

大助クラブ、ニイガタラムズが群を抜いている。北部キラーズ、スワン、赤塚アラワシ、新潟フォーカーズ、北斗クラブ、キングパンサーも有力。

昨年準優勝の大助は、社会人野球の新津クラブが主力選手。打線がちょっと弱いが、土橋投手が安定しているだけに今年も優勝候補の筆頭。ラムズは、現在市内の軟式野球で最強の三菱金属が主力。それに水道局の小飯塚を補強し、彼とパワーのある須貝のバッテリーは超一流。二葉中学のO・Bを集めたフォーカーズは、昨年選手が時間までに九人集まらず棄権したがその実力は知る人ぞ知る。北斗は全員硬式経験者で固め強い強いといわれているが、なぜか勝てない。軸になる投手のいない悲しさか。清水投手の奮起が望まれる。

（敬称略）

学校自慢 ⑤

「ぼくの木 わたしの木」 〜白山小学校〜

わたしたちの白山小学校は、「ぼくの木、わたしの木」が自まんの一つです。全校の三年生から六年生まで、一人一本ずつ自分の木を持っています。木には、自分の名前のふだがついていて、だいじにせわをしています。卒業前には、新しい三年生に木を引きつぎます。

毎年修学旅行になると、児童会で大きなてるてるぼうずを作って玄関の松の木のえだにつり下げます。今年も、新聞記者の人が、てるてるぼうずのことを聞きにこられました。

グラウンドが広くなり、校舎側のはじには、「にっこり山」が新しく作られました。「にっこり山」という名前は、児童会でぼ集して決めました。

全校の子供たちがこの山の上でおにごっこをしたり、タイヤをころがしたりして元気に遊んでいます。

佐藤和美（六年一組）

メモ 川端町一—一、昭和七年創立、児童数五百五十九人、馬場吉衛校長

自慢の木の世話をする白山小の子供たち

近代文学講座 〜浪漫派の思想と文学〜

浪漫主義時代を中心に、日本の近代文学の流れと、そこに活躍した作家たちについて研究します。

期日 六月十七日から八月五日まで毎週火曜日（計八回）
時間 午後一時半から三時半
会場 石山地区公民館
定員 四十人（先着順）
経費 運営費五百円
申し込み 電話で石山地区公民館（☎86—五六三一）へ

月日	内容	講師
6・17(火)	開講式オリエンテーション	
6・27(金)	森鷗外の初期三部作をめぐって	新潟大学助教授 清田文武
7・1(火)	「文学界」の藤村と透谷	巻高校教諭 渡辺憲
7・8(火)	永井荷風をめぐって	新潟高校教諭 若月忠信
7・15(火)	「明星」の浪漫主義運動	新津高校教諭 佐々木美智子
7・22(火)	泉鏡花の耽美主義	新潟大学教授 田中栄一
7・29(火)	石川啄木をめぐって	新潟高校教諭 塩浦彰
8・5(火)	夏目漱石をめぐって	江南高校教諭 渡辺恒美

セールスマンがお宅に来たら

〜訪問販売を受けた時の注意〜

○セールスマンが戸口に立ったら、まず販売業者の名称、商品の種類を聞きましょう。

○その商品が本当に必要かどうか、じっくり考え、時には家人と相談してから契約しましょう。

◘必要なければ勇気をもってことわりましょう。

契約書は受け取りましたか。

契約（または申し込み）をした時は書面が渡されます。内容をよく確認して押印しましょう。現金販売の時も領収書が渡されます。大切に保管しましょう。

◘クーリング・オフ制度をご存じですか。

契約した商品が、本当に必要か冷静に考え直す期間（四日間）です。四日間内なら契約の解除（または申し込みの撤回）ができます。解除する時は書面で申し出ましょう。

安井賞展公開

会期 6月14日〜7月13日（月曜休館）
会場 県美術博物館
入場料 一般500円、高・大生300円、小・中生200円（団体は20名以上）

〜安井曽太郎と私〜

日時 6月21日(土)午後1時半〜
会場 県民会館小ホール
入場料 無料，ただし整理券が必要です。往復はがきで〒951、市一番堀通町3—1、新潟県美術博物館へ（先着350人）

詩吟初心者講習会（無料）

〜主催・濟吟会〜

日時 6月9日・16日午前10時〜正午
会場 中地区公民館
申し込み 電話で小黒としえ（☎66—7314）、または、直接会場へ
※どなたでも気軽においでください。

日報園芸教室（無料）

日時 6月20日午後1時半
会場 農林中金ホール
テーマ さし木のコツ
講師 市園芸センター職員
定員 100人
申し込み はがきで新潟日報事業局（〒951 東中通1）へ

サツキ講座

〜サツキ盆栽の花後の手入れ〜

日時 6月13日午後1時15分〜3時15分
会場 園芸センター研修室
講師 内宮貞雄（県サツキ会会員）
定員 30人（先着順）
申し込み 電話で園芸センター講習会係（☎86—1034）へ

NHK シルクロード文化講演会

日時 7月10日 開演午後6時20分
会場 音楽文化会館
講演 「シルクロードの学術的意味」
講師 長沢和俊（早稲田大学教授）
定員 500人（抽選）
申し込み 6月30日までに（必着）往復はがきに住所・氏名を明記し、NHK文化講演会係（〒950 弁天1）へ

講演会（無料）

日時 6月13日午後1時半〜
会場 第四銀行本店ホール
講師 吉野俊彦（山一証券経済研究所長）
演題 「景気の現状と今後の見とおし」
問い合わせ 県商工企画課
※当日参加の方には、「中小企業施策の手引き」を無料で配布します。

会員募集

会場 中央公民館

会名	土の会生活学校	料理グループ「香葉会」
日時	毎月第2木曜日 午前10時〜正午	毎週火曜日 午後6時半〜8時半
会費	年 1,000円	月 1,500円
申し込み	☎28—3825へ ※毎日の暮らしについて、身近な問題を話し合い、より良い暮らしを見つけませんか。	往復はがきに、住所・氏名・年齢・職業を明記し、関本直章（古町13—1—2853）へ ※定員男女問わず20人

会場 中地区公民館

会名	俳句の集い	山の下混声合唱団
日時	毎月第3日曜日 午後1時〜5時	毎週土曜日 午後7時〜8時50分
申し込み	斎藤（☎74—0456）へ	池原（☎74—6711）へ
備考	会費 月 500円	講師 永沢亀（県立女子短大教授）